

令和6年度 近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会  
第70回夏季研修会(大阪大会) 実施要項

主管校 大阪府立光陽支援学校  
大阪府立西淀川支援学校

1. 大会テーマ 「障がいの重い子どもの学びと暮らしを豊かに」
2. 主 催 近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会
3. 後 援 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会  
近畿地区特別支援学校肢体不自由教育校長会  
大阪府教育委員会  
和歌山県教育委員会  
堺市教育委員会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会大阪支部  
(全て申請準備中)
4. 主 管 阪和ブロック
5. 主管校 大阪府立光陽支援学校  
〒535-0022 大阪府大阪市旭区新森6丁目8番21  
TEL:06-6953-4022  
FAX:06-6953-6932  
大阪府立西淀川支援学校  
〒555-0032 大阪府大阪市西淀川区大和田2丁目5番77  
TEL:06-6475-2560  
FAX:06-6475-9628
6. 期 日 令和6年8月6日(火)
7. 会 場 ホテルアウィーナ大阪  
〒543-0031 大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12号  
TEL 06-6772-1441  
※集合型での研修
8. 参加費 1,800円
9. 日 程 9:00~ 受付  
9:30~ 9:50 開会行事  
9:50~11:50 全体講演会  
11:50~12:00 諸連絡  
12:00~13:30 昼食・休憩  
13:30~16:00 実技講座 (午後の開会・閉会は講座ごとに行う)

10. 全体講演会 講師 筑波大学 非常勤講師 下山 直人 氏

テーマ 「障がいの重い子どもの各教科の授業づくり」

11. 実技講座(7講座)

	実技講座名 講師名(所属)	運営担当校	部屋・定員 (予定)
①	重度肢体不自由児の卒業後の暮らし～福祉サービスにつなげる支援～  平田 恭涼(社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 四天王寺さんめい苑 相談支援事業所 支援長) 松山 弘幸(社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 障がい者活動センター 四天王寺さんめい苑 支援長)	大阪府立 平野支援学校	葛城東 約60名
②	「音でつたえる・音でつながる」～ココロとカラダへの気づき～  浅尾 世津子(日本音楽療法学会 認定音楽療法士)	大阪府立 東大阪支援 学校	葛城西 約50名
③	障害の重い子どもにとっての人とのつながり ～注意の芽生え、焦点化、共同注意～  徳永 豊(福岡大学人文学科教育・臨床心理学科 教授) <b>※オンラインによるライブ講義となります。</b>	和歌山県立 南紀はまゆう 支援学校	信貴 約65名
④	歩行が不安定な子どもたちへのアプローチと身体の動かし方について  畑中 良太(大阪河崎リハビリテーション大学講師)	大阪府立 岸和田支援 学校	金剛東 約50名
⑤	肢体不自由児におけるムーブメント教育について  金川 朋子 (四條畷学園短期大学 准教授) 【実践発表者】 飯田 益美 (交野支援学校 教諭) 中嶋 駿 (交野支援学校 教諭)	大阪府立 交野支援学校	金剛西 約65名
⑥	地域の小学校と協働で取り組んだ体幹トレーニングの実践について  高畑 脩平(藍野大学 講師 作業療法士) 【実践発表者】 川崎 稔裕 (藤井寺支援学校 教諭) 黒川 洋平 (藤井寺支援学校 教諭)	大阪府立 藤井寺支援 学校	金剛中 約50名
⑦	教科の視点で考える授業づくり ～授業づくり研修実践報告～  小山 信博(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) <b>※小山先生の講義は、事前に録画した動画により行います。</b> 【実践発表者】 鶴岡 卓昌 (茨木支援学校 教諭) 鴻上 眞喜乃 (茨木支援学校 教諭) 天野 宏哉 (茨木支援学校 教諭)	大阪府立 茨木支援学校	生駒 約60名

## 12. 実技講座の概要

	実技講座名	講座の概要
①	重度肢体不自由児の卒業後の暮らし～福祉サービスにつなげる支援～	障がいのある子どもたちの生活にとって、福祉サービスを利用することは、とても重要なことです。しかし、福祉サービスを利用するにあたって、断片的には知っていても、わからないことが多いのが現状です。そこで本講座の前半では、障がいがある人の相談を専門に受け付けている機関である相談支援事業について、基本的な概要についてお話します。相談支援員の利用方法、具体的にどのような内容について相談できるのかについて紹介します。他にも、相談支援員の立場から、学校の先生方知っておいてもらいたいことや支援相談員と学校との連携についてお話します。 後半は、生活介護についての全般的な内容とその実態、生活介護に求める保護者のニーズを紹介합니다。
②	「音でつたえる・音でつながる」～ココロとカラダへの気づき～	「音でつたえる・音でつながる」ココロとカラダへの気づきをテーマに掲げ、まずは自分自身の「ココロとカラダへの気づき」に焦点を当てて、「気づき」を深めていきます。その上で肢体不自由の音楽療法の現場で用いた音楽の紹介や演奏、ロールプレイなどを通して、受講された皆様と「自分の現場にどのような音楽があると良いか」を一緒に考えます。 <b>※動きやすく汚れてもいい服装でご参加ください。床に寝転ぶため頭に敷くタオルをご持参ください。</b>
③	障害の重い子どもにとっての人とのつながり ～注意の芽生え、焦点化、共同注意～	学習指導要領の改訂により、教科の視点がより重要視されてきていますが、目標設定、学習評価を実施するためには、「発達」の理解が重要になります。意図・感情の共有や人間関係の形成の基礎に「注意行動、共同注意」の獲得があります。乳幼児が獲得する「共同注意」の形成までを「三項関係形成モデル」として示します。そして、障がいがある重度な子どもの「注意」「注意の焦点化」「他者への注意、応答」「対象物の操作」など、発達の筋道について学び、そこから教科へのつながりについて考えていきます。参加型のワークも行い、最後には質疑応答の時間を設定し、さらに学びを一緒に深めていきましょう。 <b>※オンラインによるライブ講義となります。</b>
④	歩行が不安定な子どもたちへのアプローチと身体の動かし方について	歩行が不安定な子どもの特徴は原疾患によって様々です。教員としてどのような視点で課題を捉え、運動学習を展開していくか、疾患を例に挙げて解説します。次に変形や拘縮のある子どもは、無理に動かすとストレスがかかり、逆に拘縮を強めることもあります。四肢を動かすには、どの方向に動いた方が良いのか、どの範囲なら動かしても良いのか子どもの反応を通して、介助者の手で感じながら行うことが基本になります。本講座では解剖学に基づいた骨の動かし方について、実技を通して解説します。 <b>※動きやすい服装でご参加下さい。各自大判のバスタオルをご持参ください。</b>
⑤	肢体不自由児におけるムーブメント教育について	ムーブメント教育は、運動あそびを通して、自分の身体を知り主体的に周りの遊具・環境にかかわり、生きる喜びの獲得を目的とする「人間主体」の教育・療法です。楽しみながら動くことを通して「からだ(身体運動能力)」「あたま(認知能力)」「こころ(情緒・社会性能力)」の調和

		<p>のとれた発達を促します。参加する児童生徒と教員が協働して創っていく教育です。</p> <p>前半：アセスメントツール「MEPA-II R」を元に、取り組んだ実践（交野支援学校 教諭）</p> <p>後半：ムーブメント遊具や身近な教材を使用した実技研修</p> <p><b>※動きやすい服装でご参加ください。</b></p>
⑥	地域の小学校と協働で取り組んだ体幹トレーニングの実践について	<p>前半：地域の小学校と共同研究として行ってきた実践（体幹トレーニング）を報告します。実践報告の場ではありますが、参加していただいた先生方にもトレーニング動画を体験していただきながら進めていきたいと考えています。また、姿勢と学習の関係についても事例を通して解説する予定です。</p> <p>後半：藍野大学 作業療法士の高畑先生から、本テーマに即した形で感覚統合及び体幹や姿勢・運動発達の視点から実践の助言及び講義をしていただきます。</p>
⑦	教科の視点で考える授業づくり～授業づくり研修実践報告～	<p>本校では、令和2年度から大阪府教育センターのパッケージ研修や桐が丘特別支援学校の先生方のお力添えをいただきながら「教科の視点で考える授業づくり」をテーマに授業づくり研修に取り組んできました。その中から、今回は3つの取組みについての実践報告を行い、学習指導要領からシラバス、評価までの繋がりを意識した教科の視点での授業づくりの成果と指導助言をいただいた先生方からの学びを共有したいと考えています。また、筑波大学附属桐が丘特別支援学校の小山先生から、「教科の単元づくりのプロセス」についてのご講義をいただき、日々の授業づくりに生かしていただきたいと考えています。</p> <p><b>※小山先生の講義は、事前に録画した動画により行います。</b></p>

### 13. 災害発生時・欠席等の対応について

<p>(1) 研修会中止の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日午前7時時点で大阪市内に特別警報が発令されている場合、巨大地震等が発生した場合は、夏季研修会を中止とします。その際は、講座資料の提供をもって代えさせていただきます。</li> <li>※研修会中止の場合は、光陽支援学校ホームページにその旨を掲載します。</li> </ul> <p>(2) 天候等により、来場が困難になった場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催地を除く近畿地区において特別警報等が発令された場合や、大雨等で公共交通機関が運休となった場合等、一部の方の研修会参加が難しい際は、当該の方に対しては講座資料の提供をもって代えさせていただきます。</li> </ul> <p>(3) 返金の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>欠席、研修会中止による返金はいたしません。あらかじめご了承ください。</u></li> <li>欠席の場合は、各校で代理を立てていただく等、調整をお願いします。</li> </ul>
--



## 15. 申込み方法

各校の近肢研担当者で集約していただき、大阪府立光陽支援学校 HP 内の申込み書データ(本校 HP)に入力し、メールに添付してお申込みください。

尚、不参加の場合もその旨ご連絡いただけますように、ご協力よろしくお願いたします。

※申込み書データ 大阪府立光陽支援学校 HP [\(osaka-c.ed.jp/koyo-s/\)](http://osaka-c.ed.jp/koyo-s/)

※申込み先メールアドレス [koyo.kinshi@e.osakamanabi.jp](mailto:koyo.kinshi@e.osakamanabi.jp)

※申込み締め切り 6月28日(金)

## 16. その他

- ・大阪府立光陽支援学校 HP より、全体講演会や全分科会の講座資料を閲覧することができます。閲覧に必要なパスワードは、講座決定通知とともにお知らせします。
- ・当日は、講座資料の配布は予定しておりません。各自印刷してご準備いただくか、ご自身のタブレット端末等を使用していただくようお願いいたします。
- ・会場内の飲食は、不可となっております。昼食のお持ち込みはご遠慮ください。昼食は、ホテル内レストランをご利用いただくか、ホテル周辺の飲食店をご利用ください。水分補給のための飲み物は、ふたが閉まるものであれば持ち込み可能です。

◎ご不明な点がございましたら、お気軽にお尋ねください。

多くの方のご参加、お待ちしております。

### 【問い合わせ先】

大阪府立光陽支援学校

教頭 中村 素子

〒535-0022

大阪市旭区新森 6 丁目 8 番 21

TEL 06-6953-4022

FAX 06-6953-6932

E-mail [koyo.kinshi@e.osakamanabi.jp](mailto:koyo.kinshi@e.osakamanabi.jp)